

長期ビジョンの将来像実現のための**構想、プロジェクトを例示**

事業の緊要度

A:すぐに事業として取り掛かるもの

B:まずは枠組みなどを作って事業化に移行していくもの

C:構想・アイデアについて技術革新などの社会の動向を勘案しつつ、中長期の視野に立って対応するもの

| | 想定プロジェクト | 考えられる論点 | 緊要度 |
|-----------------|---|---|-----|
| 【将来像1】 | 新たな価値創造2045 | | |
| 1 生産性向上と新たな価値創造 | <p>(1) 第4次産業革命を勝ち抜く、とやま産業革新プロジェクト IoT、ビッグデータなどの活用を進めるとともに、産学官が連携し、ナノテク、高機能素材などの分野横断的技術の開発・事業化を促進することにより、「とやまバリュー」を創造するもの</p> <p>①IoT、ビッグデータ、AIなどを活用し、宇宙・航空機など新たな成長産業への参入促進 ②県内全域に「富山型スマート工場モデル」の普及 ③県工業技術センター、ものづくり研究開発センター、県立大、富大等が連携し、ナノテク、軽量高強度な材料分野など富山の技術力を活かしたオープンイノベーションの拡大</p> | <p>○30年先を見据え、IoT、ビッグデータ等を活用し、どういった成長産業への参入、構想・プロジェクトを目指すべきか。</p> <p>○生産性が向上することで、人材不足が解消される一方で、多くの仕事がAIに置き換わり、円滑な労働移動への対応が指摘されるが、新たな付加価値を生み出すため、働き手にはどのようなスキルが必要となるか。</p> <p>※「富山型スマート工場モデル」…生産設備の稼働データをインターネットで収集・分析し、生産工程を最適化。(協力工場等へも拡大)</p> | |
| | <p>(2) とやま産！ 再生可能エネルギー発電日本一プロジェクト 地熱資源量や包蔵水力が、ともに全国2位といったポテンシャルを活かし、地熱・小水力等の再生可能エネルギーや、水素などの新たなエネルギーの利活用を促進するもの</p> <p>①豊富な資源量を活かした地熱発電所の建設、②燃料電池車(FCV)、水素ステーションなど、水素社会の構築、③新たな国産資源として期待されるメタンハイドレートの調査、採取技術の開発</p> | <p>○再生可能エネルギーは、地域で活用することが効果的とされるが、将来に向け、どのような活用方法が考えられるか。</p> <p>※「でんき宇奈月プロジェクト」…小水力発電をはじめとした再生可能エネルギーとEVバスによる公共交通事業</p> | |
| | <p>(3) ライフ サイエンス クラスタを活かした『薬都とやま』プロジェクト 富山大学、県立大学等の研究成果や医薬品産業界が保有する技術を活用し、「薬都とやま」の確立を図るもの</p> <p>①国の大型プロジェクトの成果を活かし、環境負荷の少ない酵素反応による医薬品生産の実用化、②製薬企業とものづくり企業とが連携し、高付加価値な医薬品、打錠機など製薬機器の開発、③バイオ医薬品の画期的な製造技術に係る国家的な研究所の誘致</p> | <p>○生産する側以外に、「薬都とやま」を推進するに当たって、どのような取組みが考えられるか。</p> | |
| | <p>(4) とやまの農林水産業成長産業化プロジェクト 意欲ある担い手が将来にわたり希望を持ち、安心して取り組めるよう、魅力ある農林水産業の確立を目指すもの</p> <p>①ICT技術等を活用した「水田スマート農業」の展開 ②高品質・競争力のある食材の宝庫「食の王国とやま」づくり ③優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の全国への普及による「スギ花粉症ゼロ社会」の実現 ④「天然のいけす」富山湾の恵みを活かした海洋牧場の展開</p> | <p>○日本一の水田率を活用した水田スマート農業を進めることについて、植物工場など屋内ではICTの活用も可能であるが、一方で自然を対象としたスマート農業の可能性について、どう考えるか。</p> <p>○「天然のいけす」富山湾をどのように活用していけばよいか(例:急峻な地形を利用して表層や深海などの多層型養殖(ベニズワイガニなど))。</p> <p>○「食の王国とやま」をさらに強力にアピールするために、気候変動や品種改良により新たな品目を開発することはどうか。</p> | |
| | <p>(5) J・G・C(Japan Golden Corridor「日本黄金回廊」)とやま拠点化プロジェクト 北陸新幹線大阪延伸により、ゴールデンルートと新ゴールデンルートがループ状につながることで生まれ一大交流・経済圏の中で本県の拠点性を高めるもの</p> <p>①乗り換えなしの「環状型新幹線」の形成、②東海北陸自動車道の早期全線4車線化、③富山きとさと空港における航空ネットワークの充実、④伏木富山港の機能強化と環日本海・アジア地域との経済交流の推進</p> | <p>○北陸新幹線をどのように活用すれば富山県のJGCにおける拠点性を高められるか。(新富士駅(富士山)～黒部宇奈月温泉駅(立山)乗換なし)</p> <p>○新幹線に、物流の面から、東海北陸自動車と組み合わせ、富山県の拠点性を高めることについて、どうか。他のインフラとの組み合わせにおいてどのような優位性が考えられるか。</p> | |

| | 想定プロジェクト | 考えられる論点 | 緊要度 |
|-----------------------------------|---|---|-----|
| 2 地域文化が生活に溶け込む「生活文化デザイン王国」 | (6) アニメ文化・クリエイティブ産業・人材集積プロジェクト アニメなどクリエイティブな商品を作成する人材育成を進めるとともに、アニメ、キャラクター等のコンテンツ産業などの集積を図るもの ①アニメをはじめとしたクリエイターの育成を支援、②「アニメ工芸(銅像やフィギュア)」という新ジャンルの形成、③AR(※)を活用したマンガ・アニメの聖地・TOYAMA・巡礼 (※)コンピュータを使い現実の世界に仮想的なものを追加できる技術(例:スマホをかざすと目の前の景色にアニメキャラが投影される) | ○アニメやデザインなどのクリエイターを集積するためには、どのような取組みが効果的か。 | |
| 3 価値創造力を高める学校教育プログラムの確立 | (7) 富山型キャリア教育プログラム開発プロジェクト 新規高校卒業者の就職率が全国第1位となり、新規高校卒業者の県内就職率が全国第2位の高い地元定着率を示すなど、本県の先駆的なキャリア教育の取組みと実績を活かし、「富山型キャリア教育プログラム」の開発に取り組むもの ①産官学「キャリア教育コンソーシアム」の設立による「富山型キャリア教育プログラム」の開発 | ○小中高校生の将来の就業意識の醸成をより効果的に行うことが必要であるが、企業見学や14歳の挑戦などの職業体験において、どのような工夫や取組みを行っていけばよいか。 ○学校現場以外での地域などにおいて、就業意識を高める取組みとしてはどのようなことが考えられるか。 | |
| | (8) 社会で生きる基礎力育成プロジェクト 「ヒューマンスキル(※)」とICTなどの「テクニカルスキル(※)」が融合した人材の育成を図るもの ①プログラミング教育必修化への対応などICTリテラシーの育成強化、②アクティブ・ラーニングの推進などによる柔軟な発想や表現ができる人材の育成 (※)ヒューマンスキル:ヒアリング、ネゴシエーション、プレゼンなど (※)テクニカルスキル:プログラミング、データ解析など | ○第4次産業革命の進展により、人間の仕事の多くがコンピュータに置き換わることが予想されるが、そうした中で児童・生徒にどのような能力を育むべきか。 | |
| 【将来像2】 グローバル&ローカル2045 | | | |
| 4 世界に存在感を示す「とやまグローバル戦略」の展開 | (9) とやまグローバル戦略推進プロジェクト 工業製品、工芸品、農林水産物等の輸出額を大幅に拡大するとともに、対日投資の促進や物流活性化など、海外からのニーズを取り込んだマルチな経済連携によるグローバル戦略を展開するもの ①発展有望な国や地域との新たな経済交流の発掘、②企業の海外展開の官民一体による推進、③農林水産物や加工品、環境技術や高付加価値製品等の輸出拡大 | ○官民が一体となって、具体的な現地ニーズや橋渡し役をどのように発掘し成功事例につなげていくか。 | |
| | (10) 医薬品・医療機器等グローバル(アセアン)人材ネットワークプロジェクト (独)医薬品医療機器総合機構(PMDA)によるアジア医薬品・医療機器トレーニングセンターGMP調査研修で来県したアジア等の薬事行政官に対して、日本の医療提供体制、医療保険制度、富山県の伝統である配置薬販売システム等、医薬品関係のシステムをパッケージとして学ぶ機会を提供し、アジア地域等の保健衛生の向上と富山県の医薬品産業の海外展開の促進を図るもの ①関連分野の研修の実施、②交流機会の提供、人材ネットワークの形成、③訪問団の派遣 | | |
| 5 世界に開かれた「とやま文化」の発信 | (11) 世界に発信する「とやまの文化GDP」拡大推進プロジェクト 世界各地とダイレクトに繋がる国際的な文化交流を推進し、世界中から芸術文化人が集う芸術文化の拠点を形成し、富山の文化GDPの拡大を目指すもの ①新たな国際的文化イベント(例:世界ポスタートリエンナーレトヤマ、とやま世界こども舞台芸術祭など)の形成・誘致、②文化施設や文化財の観光資源化、③「TOYAMA literature(文芸)」の確立 | ○これまで育成、支援してきた国際的な文化イベント等を、さらに発展・飛躍させていく場合、どのような視点から取り組むことが望ましいか。 ○文化施設や文化財の観光資源化に取り組むためには、どのような視点に着目しアピールするのが望ましいか。 | |
| 6 ふるさと教育とグローバル教育の融合 | (12) 英語によるコミュニケーション能力を鍛える「とやまメソッド」開発プロジェクト 郷土を学び、英語で伝える能力を養成する「とやまメソッド」を開発するもの ①体系的な英語教育プログラムの開発、②ふるさと教育の教材等を英語教育に生かした「とやまメソッド」の開発など | ○英語を身につけ、英語で語る意欲を起こさせる仕掛け(きっかけや動機付け)として、どのような方向が考えられるか。 | |

| | 想定プロジェクト | 考えられる論点 | 緊要度 |
|----------------------------|---|--|-----|
| 【将来像3】 人・地域が輝く 2045 | | | |
| 7 個の力を磨き上げ、潜在力を高める人材戦略 | (13)「かがやき現役率」日本一プロジェクト 高齢者になっても働きたい人や社会貢献したい人が多いことを踏まえ、従来の生産年齢人口の上限を引き上げ、例えば「15歳から74歳」の現役率日本一の実現に向け、ライフステージの各段階で「今」の仕事にやりがいを感じながら、長い職業人生を健康に送り、地域を支え続ける社会を目指すもの ①高齢者が経験と能力を生かせるよう、柔軟な就労形態、シルバー人材センター、起業など幅広い活躍に向けた効果的な支援、②高齢者の活用促進に向けた環境の整備等 | ○高齢者が働きやすい環境づくりに向けて、賃金、労働時間等の人事管理や業務改善など、企業や行政はどのように取り組むことが望ましいか。 | |
| | (14)若者・女性潜在力向上プロジェクト 県内の若者や女性の職業能力開発プロジェクト ①年齢や性別、雇用形態に関わりなく、能力が適正に評価されるシステムへのシフト、②複線的なキャリアアップ、能力開発機会の確保、③女性の活躍促進による女性管理職の増加 | ○正規雇用者(とりわけ男性)の長時間労働に依存しがちな現状をどう改善するか。 ○女性管理職の増加のために、どのような対策が必要か。 | |
| 8 文化芸術の力で「元気とやま」を牽引 | (15)芸術文化活動を通じた県民総活躍の場の創出プロジェクト 幼少の頃から気軽に質の高い芸術文化に触れられる環境の整備や、若手芸術家の活動機会の創出を図るとともに、文化の創造をサポートする活動も含めて文化を担う人材育成を推進し、芸術文化活動を通じた県民総活躍の場を創出するもの | ○芸術文化に親しむことの機運醸成を図るため、どのような取り組みが効果的か。 | |
| | (16)県民文化コロシアム(仮称)整備プロジェクト 子どもから親子、若者などが幅広く、日常的に文化教養、コンサートやスポーツなどに親しむことのできる全天候型の文化スポーツ施設の整備 ①子どもたちに地域への愛着や誇りを感じ取ってもらう日常的な多目的施設、②文化プログラム、スポーツイベント等の開催 | ○県民会館の(H27.3月改修)、テクノホール(H29.秋増築予定)、県総合運動公園や市町村立を含めた体育館などとの関係性はどうか。 ○これらの類似施設の状況を踏まえ、県内にはどのようなコンセプトや運営方法の施設が不足していると考えられるか。 | |
| 9 地域(凝集力)の生産性、問題解決力の向上 | (17)富山の地域共生力向上プロジェクト 「地域共生」を大切にする県民意識の向上を図るとともに、住民が地域に誇りを持ち、社会への帰属・貢献力アップを図るため、地域の価値(ブランド)向上を目指すもの ①「ソーシャルキャピタル・マイレージ制度」の導入など、社会貢献あふれる地域づくり、②「富山物質循環フレームワーク」を踏まえた取組みなど、環境トップランナーとしての新たな魅力づくり | ○社会貢献と対価の関係性をどう捉えるか。 ○「マイレージ」を付与する対象を、どのような活動に設定したらよいか。(森づくり活動は、インセンティブがなくても多くの方に参加いただいている) ○「マイレージ」の費用は誰が負担するのが適当か | |
| | (18)健康で、みんなが支えあう社会づくりプロジェクト 「次世代インフラ」等を活用し、健康づくりに取り組みやすい環境づくりと、支えあい精神にあふれる安全安心で快適な地域を目指すもの ①健康を維持していることにより介護保険を使わない場合等に付与される「健康ポイント制度」の導入、②ICT(ウェアラブル端末など)などを活用し、個人の行動を地域全体で支える仕組みづくり | ○「健康ポイント制度」の制度設計にあたって医療受診や介護利用の心理的抑制につながらないような仕組みをどのように構築するか。 | |